

統計調査員を募集しています



町では、国などが実施する各種統計調査に従事する統計調査員を募集しています。

統計調査は5年ごとに実施される「国勢調査」のほか、私たちの暮らしに役立てるため、毎年さまざまな統計調査を実施しています。あなたも統計調査員として活動してみませんか。

応募者は、町の登録調査員として名簿に登録します。

調査員として登録できる人

- ・20歳以上の人
- ・責任を持って最後まで調査を遂行できる人
- ・税務・警察および選挙に直接関係のない人
- ・調査時に知り得た秘密の保護を守ることのできる人

仕事の内容

統計調査員は、町内の一定の区域(調査区)を受け持ち、対象となる世帯・事業所などを訪問し、調査票を配布して回収します。

主な流れは、次のとおりです。

- 1 調査員説明会への出席
- 2 調査票の配布・記入依頼
- 3 調査票の回収・点検
- 4 調査書類の検査と提出

報酬

報酬の額は調査の種類や受け持ち件数などにより異なります。

応募方法

応募は随時受け付けています。

登録を希望される人は、まず、お電話にてお申込みください。

問 総務課 総務係 ☎57-8500

令和元年度 中学生の「税についての作文」入選作品

税を考える週間実行委員会が募集された中学生の「税についての作文」で受賞した作品を紹介します。

★熊本県納税貯蓄組合 連合会優秀賞

「税を学んでのこれから」

南関中3年・加藤 仁美

私は今まで税について考えたり、学んだりすることはあまりありませんでした。中学生になって何回か税金のことについて話を聞く時間があつたけど、自分の中でうまくまとめられずにいました。

でも、話を聞く中で、毎回私が思っていたことは、税金は私たちの生活になくてはならないものだということ。税金がなくなると、今当たり前のように通っている学校に行けず、道路などの修理もできません。そして、犯罪が起きた時に助けてくれる警察、火事が起こった時に火を消してくれる消防士など、命に危険がある状態でも、お金をはらわないと来てもらえなくなりません。そんな世の中だったら、私は安心して生活することができないと思います。だから、

私は税について学ぶたびに、税金は必要だと改めて強く感じさせられます。

そんな、生活に欠かせない税金を納めてくれるのは、私たち子供ではなく、働いている親です。私たち子供は全く納めていないわけではなく、買い物をしたときに消費税を納めています。それはほんの一部で、多くの税があるなかで、その税を納めてくれているのは親です。家族が安心して働くように、一生懸命働いて、税を納めてくれます。税金は必要なものだと知っていながら、私たちに何もできません。自分たちは親によって今の生活があり、支えられています。だから、私は、今幸せな生活のおかげで、私に感謝したいと思います。

また、私は税を納めることはできなくても無駄にしないことはできると思うので、無駄にしないようにしたいです。学校に行くことや、教科書などにも税金が払われているので、真面目に授業を受けて、

★南関町長賞

「税金についての私の考え」

南関中3年・安崎 綾乃

親が払った税金を無駄にせず、これからの毎日を過ごしたいと思います。そして、私が大人になったとき、私の親が支えてくれたように、家族が安心して暮らせるような生活を築きたいです。社会に役立つ人間になれるよう、毎日を過ごしていこうと思います。

今回、税金について税理士をされている、のど鳥さんの話を聞いて、私の税金に対する印象が変わりました。その理由は三つあります。

一つ目は、私が税金に対して、あまり関心を持っていなかったからです。税金は、働いている大人が払っているお金で、自分とはあまり関係のない話だと思っていました。私たちが学校に通っているのは、税金のおかげだとは分かって

いましたが、一年間で一人にかけられている具体的な額を知り、びっくりしました。小学生は約八十七万六千円、中学生は約九十八万五千円、高校生は約九十八万五千円、国の予算の五・五%が、教育や科学技術をさかんにするために使われているのだと、知りませんでした。五・五%を具体的な数字にすると、五兆二千五百七十四億円です。小・中・高の中で一番、費用がかかっているのは、私たち中学生であることに、驚きました。税金をかけられていると知ったので、今まで通り勉強をしてはいけなないと思えました。

二つ目は、税金があることが当たり前だと思っていたことです。当たり前前に警察官や消防士が働いてくれていて、壊れた道路が直されていくものだと、思っていました。でも、今のビデオを見て、何をすることもお金がかかり、税金が役に立っているのだと思いました。生活で発生したごみや、汚くなった水も、税金により処理される施設が作られ、そこで、再利用されていきます。また、税金がないと警察を呼ぶのが有料になり、どんどん治安が悪くなっていきます。子どもは学校へ行けなくなり、高齢者も働かないと、生きて行け

なくなります。税金は、国を完全に保つためになくてはならないものだと分かりました。三つ目は、今の日本がどういう状況が知らなかったからです。今の国の収入は、六十八・八兆円で、支出は百一・五兆円です。支出が収入より八百九十七兆円も上回っています。国が借金をしている状態だと、私は知りませんでした。また、日本の現在の消費税率は、八%です。これは世界的にみると少なく、多いところは二十五%など、二十%を超えている国もあります。消費税率が高い国は、高齢者が幸せな国だと聞きました。消費税が高いことは、私も少し抵抗があるけれど、私たちが学ぶことができるのなら税率を上げるのに私は賛成です。

今回の講話を聞いて、税金に対する印象が変わりました。めんどうで自分にとって負担になるものと思っていたが、私たちがよりよく暮らすためになくてはならないものと、肯定的な印象をもつことができました。また、税金について知ること、国の政治も身近に感じ興味が出てきました。税率は少しずつ上げ、暮らしやすい国づくりに、私も協力したいです。